



重田家住宅

玉村町の小泉地区にある重田家は、江戸時代中期頃から代々医師を家業としてきた家柄で、現地においては昭和25年(1950)3月まで開業していました。当家の家伝薬は大変よく効くといわれ、地域の人々の間では「小泉重田の門をくぐるだけで病気が治る」といわれた程でした。また、家伝薬の効能から「子ども医者」「小児科は小泉の重田」として、「群馬の医師の三家」の一つとされていました。

広い敷地内には、主屋・穀蔵・西の蔵・東の蔵・外便所・井戸屋形・表門及び塀等があり、この7棟が平成13年(2001)11月20日に国の登録有形文化財に登録されました。

明治から昭和にかけての建物を数多く保有しており、地域の歴史的景観資源であるとともに、この地方の医家の暮らしを知ることができる貴重な歴史的建造物です。

令和3年(2021)7月、所有者の重田家より土地、建物が玉村町に寄贈されました。



重田家の歴史

初代 三郎兵衛英信

家伝では姫路城主のお抱え医を務めていたといわれ、またその妻は姫路城の姫君といわれており、「妙光院殿」の戒名が墓石に刻まれています。

11代 寛齋(天保4年(1833)～明治30年(1897))

明治初年コレラ流行期に、患者のために尽力し明治天皇から褒状を賜ったとされており、三百年の医家の歴史を持つ重田の家の中興の祖とされています(13代政章夫人喜久氏歌集『りんどう』より)。小泉村戸長や芝根村の助役を務めました。

12代 精哉(嘉永6年(1853)～大正8年(1919))

9歳で伊勢崎藩医の今村了庵に師事。東京帝国大学では詩人萩原朔太郎の父萩原密蔵と同期、医学部別科を卒業。初代佐波郡医師会会長を長年勤めました。

13代 政章(明治19年(1886)～昭和14年(1939))

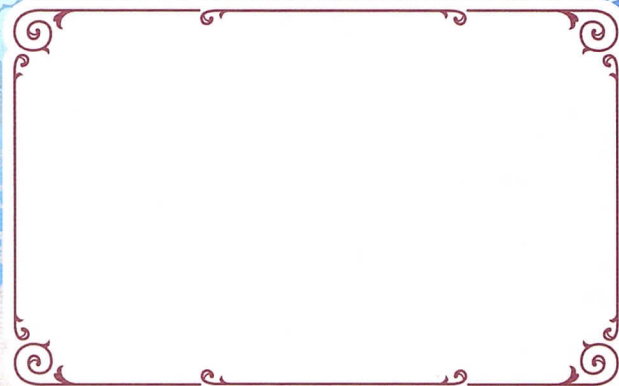
大正時代、電気のない芝根村に芝根電灯株式会社を設立。昭和初期には村人に衛生思想普及のため栄養士を招いたほか、映画の上映をする等、故郷芝根村に献身しました。



重田家住宅航空写真(昭和初期)

14代目の医学博士重田政信氏と15代目政樹氏は、医療法人小泉重田小児科を営んでいます。

来館記念スタンプ



開館時間 午前10時～午後4時(入館は午後3時30分まで)

開館日 平日 水・木・金曜日

土・日曜日についてはイベント開催時に開館します。

(祝日・年末年始は休館)

見学無料

*開館日は変更する場合があります。

*イベント時に見学を一部制限する場合があります。

*駐車場は、町が契約している重田家住宅南側の駐車場をご利用ください。

*イベントや利用案内については、玉村町「重田家住宅」のホームページをご覧ください。



たつながさま おたまちゃん



《交通案内》 関越自動車道 高崎玉村スマートICより約10分

重田家住宅

〒370-1114 群馬県佐波郡玉村町大字小泉42番地



玉村町教育委員会 生涯学習課文化財係

〒370-1105 群馬県佐波郡玉村町大字福島325番地 玉村町文化センター内
TEL 0270-30-6180 FAX 0270-30-6183

令和4年度群馬県地域振興調整費補助金を活用しています。

令和5年2月発行



重田家住宅

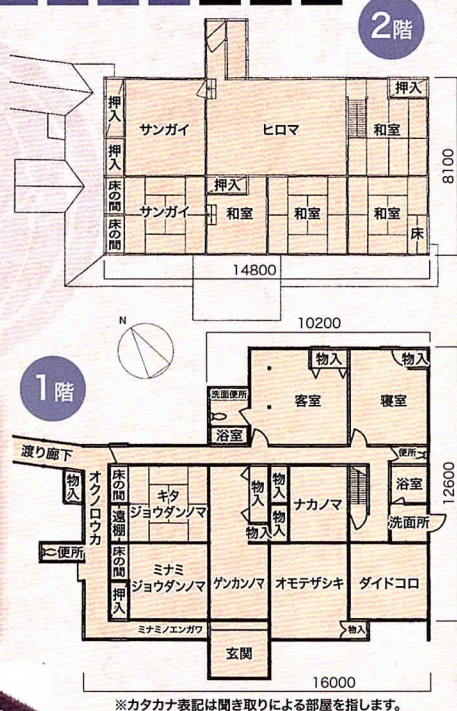
国登録有形文化財



重田家住宅の建築

重田家住宅は玉村町小泉の利根川堤近くに位置しており、敷地内には「主屋」のほか、付属建物として「穀蔵」「西の蔵」「東の蔵」「外便所」「井戸屋形」「表門及び塀」「車庫」「西阿屋」が現存しています。

主屋現状平面図



2階

1階

※カタカナ表記は聞き取りによる部屋を指します。



1階 ジョウダンノマ 接客空間として使用していました。



しきだい 式台付玄関
身分の高い客人用の玄関。駕籠から降りた際に、足を汚さずにそのまま建物へ迎え入れるためのもの。



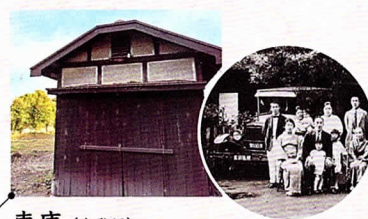
主屋 木造2階建、瓦葺、
建築面積207㎡。

住宅兼医院として造られ、桁行8間、梁間5間の総2階建。棟札に明治16年(1883)1月5日上棟と記されており、建築当初より医院として使用されていました。内部は六間取り型の農家住宅を基本としたもので、正面中央部の式台付の玄関が、当家の格式を示しています。

建築主：重田寛斎(11代)
棟 梁：宮嶋市平 鷹：内山兼吉(両名とも玉村五丁目)

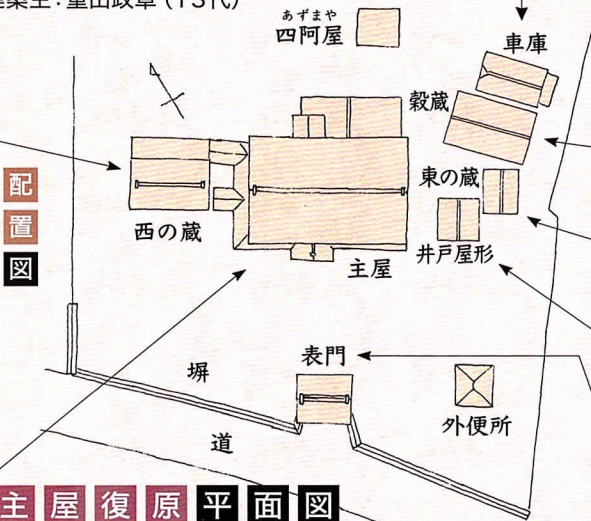


西の蔵 土蔵造二階建
昭和2年(1927)
6月21日上棟



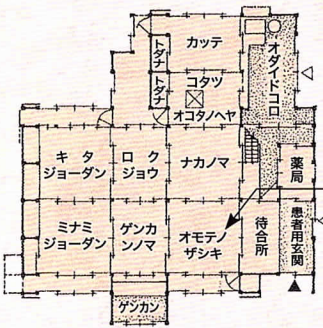
車庫(未登録)
昭和戦前の建造。木骨スタイルのドイツ壁仕上。フォード車を保管していました。

建築主：重田政章(13代)



主屋復原平面図

建築当初は、患者用玄関の土間に接して、待合所・薬局を設け、「オモテノザシキ」は患者の診察室としていました。平成になり「待合所」「薬局」は台所・浴室等に変え、「ゲンカンノマ」「ロクジョウ」を中廊下として、「ミナミジョーダン」「オモテノザシキ」「オコタノヘヤ」「カッテ」「オダイドコロ」を洋室に変えています。



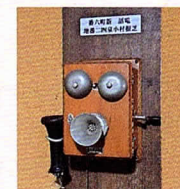
※主屋現状平面図は『群馬県の近代和風建築』、
主屋復原平面図は『玉村町誌別巻III玉村町の建造物』による。



住宅兼医院だった当時、オモテノザシキは患者の診察室でした。(ゲンカンノマから撮影)



2階
2階の一部を展示コーナーにしています。



重田家は昭和2年(1927)、玉村町域で電話が開通した時の芝根村で唯一の加入者でした。次に昭和9年(1934)に芝根村役場が加入しました。



穀蔵 土蔵造平屋建
明治31年(1898)建造



東の蔵 土蔵造平屋建
昭和3年(1928)建造

家伝業の材料保管庫と
伝えています。



井戸屋形
木造平屋建
大正初期建造

昭和20年(1945)8月14日深夜の空襲により風呂場に焼夷弾が落ちたため、バケツリレーで鎮火にあたった際、井戸の水が枯れてしまいました。(重田政信『わたしの履歴書』より)



表門及び塀
表門 明治23年(1890)建造
塀 明治25年(1892)頃建造

表門は木造、薬医門形式。塀は木造で、平成23年(2011)に復元しました。



外便所
大正15年(1926)建造

患者用のトイレとして
使用されていました。